

SS-Lecture 菅平・峰の原高原実習

令和6年9月22日(日) 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所・峰の原高原にて

筑波大学山岳科学センター 田中健太先生、峰の原高原観光協会・峰の原高原 Mine のメンバーの方々にご協力いただき、菅平・峰の原高原実習を実施しました。

【実験所内の野外フィールド見学：菅平高原実験所にて】

菅平高原実験所のフィールドは地表の下に 60 cm もの黒ボク土の堆積しており、黒ボク土の放射性炭素年代測定により 4300 年前（縄文時代）から草原だったことが分かっているそうです。一般の方がわらびを自由に取れるように開放したり、年に 1 度は草原を刈り払うなど、人為的な管理により昔からの草原の姿を維持しているそうです。

生徒たちにとって「草原」というイメージからは想像がつかないような、背丈ほどある草むらをかき分けながら、草原内に生育する植物について解説をしていただきました。古くからある草原にしか生育しないワレモコウやツリガンニンジンを見ることができました。草原を進んでいくと、徐々に木本が見られるようになり、アカマツやミズナラ、ヤマナラシなどが生育する混交林に到着しました。実際にさわってみたり、花の匂いを嗅いだり、木をゆらしたときの音を聞いたり、木の実を食べてみたりと五感を使いながら、遷移の様子を見ることができました。

【観光協会の方々からのお話：峰の原高原にて】

午後からは、峰の原高原に移動して、峰の原高原の自然や景観を守るために活動をされている、峰の原高原観光協会・峰の原高原 Mine のメンバーの方々にお話をさせていただきました。草原の保全について、峰の原高原での取り組みについて教えていただき、草原の保全活動に若者が参加するにはどうしたらいいかなど、意見交換を行いました。

【草原維持活動についての講義・峰の原高原の散策】

自然かく乱の減少や、利用・管理の減少から、ここ 100 年で 9 割以上の草原が無くなり、森林化してしまっています。草原には希少な山野草が存在し、多くの絶滅危惧種も存在しているそうです。草原を草原として維持していくためには、適度な手入れと利用が大切であることを教えていただきました。

説明して下さった植物を、高原を散策しながら実際に見せていただきました。ワレモコウやツリガネニンジン、オミナエシ、マツムシソウ、エゾリンドウなど季節の種を見ることもできました。

【草刈り作業への参加】

「峰の原の草原をつくろう」の活動として行われている、ススキ刈りを体験させていただきました。生徒たちは、楽しみながらも一生懸命にススキを刈り取り、環境保全大変さや大切さを理解することができたようです。



菅平実験所にてフィールドワーク
草原をかきわけて歩きました。



草原から森林へ



峰の原観光協会・峰の原高原 Mine
お話をさせていただきました。



峰の原高原の散策



草刈り作業と刈り取ったススキ